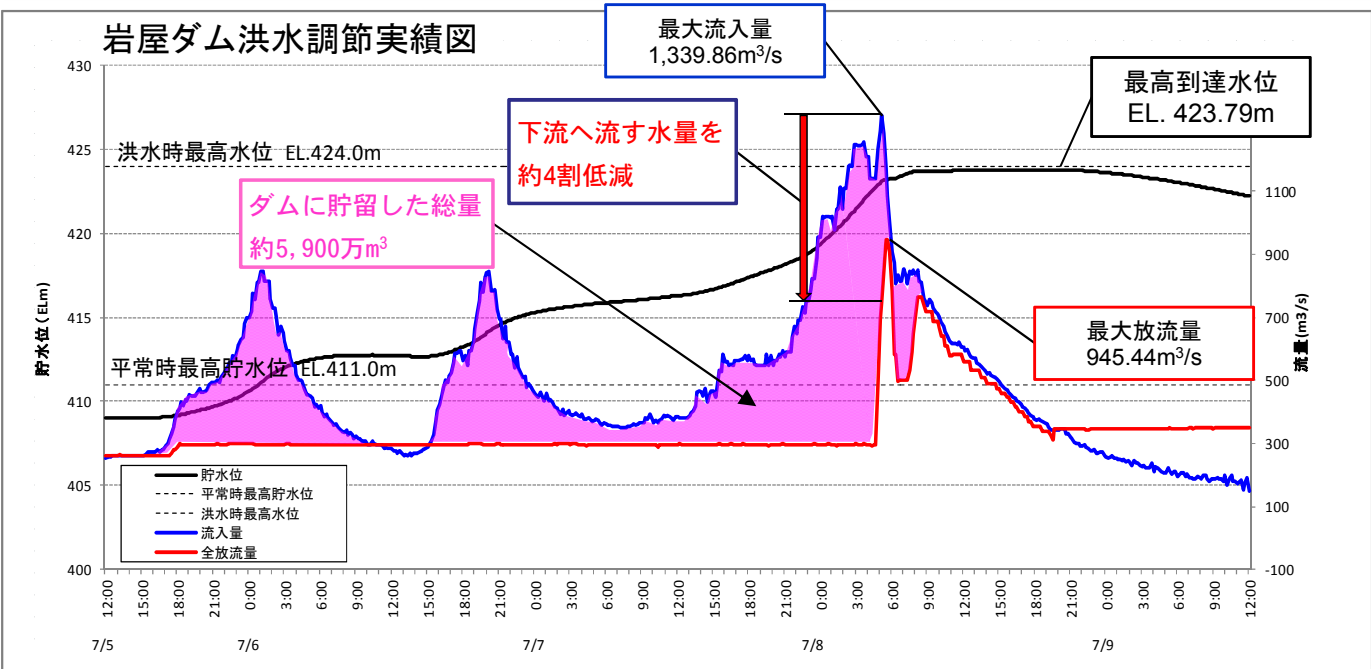
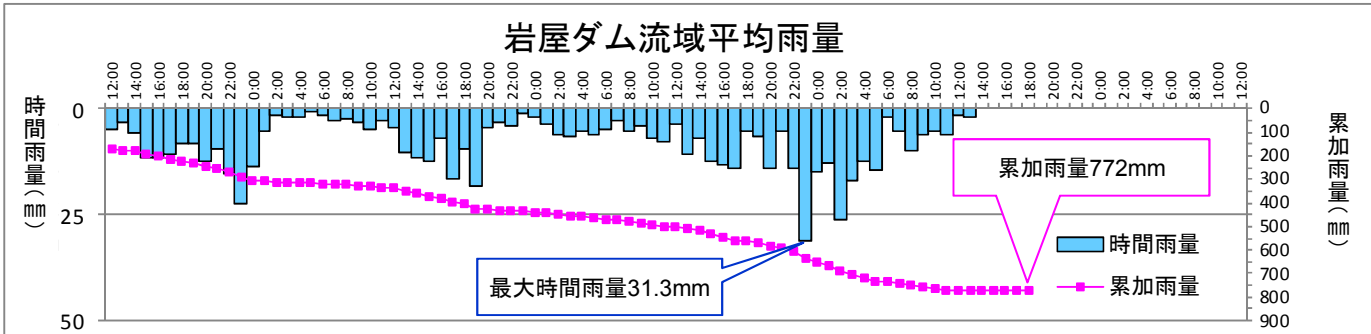


平成30年7月豪雨における岩屋ダムの洪水調節効果 木曾川水系飛騨川(岐阜県)

- 活発な梅雨前線の影響により、まとまった降雨が断続的に発生。岩屋ダム流域における7月4日0時～7月8日13時までの累加雨量は772mmに達する観測以来最大の豪雨(過去の最大は平成11年9月の532mm)。
- 洪水時最高水位に迫る水位まで貯水池を活用して洪水調節を行い、総量約5,900万 m^3 の洪水を貯留。ダムへの最大流入時に下流へ流す水量を約4割低減。
- これにより、ダム下流河川の流量を低減させ浸水被害を軽減するとともに、ピーク流量の発生時刻を遅らせて避難時間等を確保。



洪水貯留開始前の貯水池の状況 (7月4日9時頃)



洪水時最高水位に近く貯水池の状況 (7月8日 15時30分頃)